

【目次】

1. 日本労働会館 2020 年度第 3 回理事会を開催、10 月 27 日！
2. 渋沢栄一・添田敬一郎らの「協調会宣言」から 100 年、大正 9 年 11 月 8 日！
3. 友愛会東京連合会の東京労働講習所第 1 回講習会から 100 年、大正 9 年 11 月 10 日！
4. 労使関係研究協会が第 28 回労働講座を開催、11 月 24 日！
5. 労働資料協 2020 年総会は新型コロナウイルス対応のため ZOOM で開催、11 月 10 日！

1. 日本労働会館 2020 年度第 3 回理事会を開催、10 月 27 日！

一般財団法人日本労働会館は 2020 年度第 3 回理事会を 10 月 27 日 10 時 30 分から、友愛労働歴史館研修室（友愛会館 8 階）において開催しました。

冒頭、宮本礼一理事長が議長として理事会が適法に成立していることを宣し、会議に入りました。先ず徳田孝蔵理事（友愛労働歴史館館長）が理事代表挨拶を行い、続いて 3 つの事業報告として友愛労働歴史館事業報告を間宮友愛労働歴史館事務局長が、労使関係研究協会事業報告を滑川労使関係研究協会事務局長が、そして三田会館宿泊事業報告を菊池日本労働会館総務部長がそれぞれ行いました。

その後、（一財）日本労働会館の中間事業報告を滑川日本労働会館常務理事が行い、質疑・意見交換の後、確認。最後に会議予定等の総務事項を確認して理事会を閉会しました。

2. 渋沢栄一・添田敬一郎らの「協調会宣言」から 100 年、大正 9 年 11 月 8 日！

企業・産業における資本家と労働者の協調をめざす協調会（徳川家達会長・渋沢栄一副会長ら）は 1919（大正 8）年、内務省の呼びかけと財界・大企業の出資により設立されました。協調会（現在の法政大学社会学部と産業能率大学）について広辞苑は、「労資協調を目的とし、労資紛争の防止・調停、社会問題の解決・調査・研究などを事業とした財団法人。1919（大正 8）年東京に創立、第二次大戦後解散。」と解説しています。

見え見えの労資協調を目指していた協調会ですから、当時の労働者・労働組合は反対しました。副会長の渋沢栄一は友愛会の鈴木文治に協力を要請しますが、当然、鈴木は拒否します。渋沢はもともと「労資は対等、労働組合は法律できちんと認める」との立場。それ故、彼は内務官僚と資本家が設立した協調会では、労働者・労働組合には受け入れられないと考えていました。



1920（大正 9）年、渋沢は創立時の役員を更迭するとともに、進歩派内務官僚の添田敬一郎を招いて協調会の改革に乗り出します。渋沢と添田がまとめ、1920 年 11 月 8 日に発表されたのが「協調会宣言」。そこには「人間は常に最終の目的でなければならぬ。人格の尊重、これが協調主義の根帯である。」とする人格主義が謳われていました。

元々友愛会・総同盟は友愛的・人格向上的労働組合主義ですから、「人格の尊重」を掲げる協調会とは親和性がありました。友愛会は渋沢と添田が主導した協調会改革を評価し、次第に連携を深めていきます。それは渋沢が死去し、添田が追放された 1930（昭和 5）年頃まで続きました。今日尚、協調会を「労使協調の悪しき団体」とする見方がありますが、単純すぎるでしょう。

3. 友愛会東京連合会の東京労働講習所第1回講習会から100年、大正9年11月5日！

友愛会東京連合会は1920（大正9）年11月5日、東京労働講習所を開講し、第1回講習を開講しました。『総同盟50年史』（第一巻）は「東京連合会は、学校形式の組織的な教育機関として、東京労働講習所を設立した」と記し、「東京労働講習所は一週一回、3時間、三ヵ月をもって一期とし、二期、すなわち六ヵ月をもって修了する」と続け、「第一期は、聴講生45名で東京・神田錦町の女子音楽学校で開講された」と記録しています。

東京労働講習所は労働者の理論的研究を目的としたもので、講師および科目は、安部磯雄（経済学原論）、堀江帰一（経済学各論）、北沢新次郎（労働運動と社会思潮）、鈴木義男（法学通論）らでした。

労働講習所の第1回講習は「学校形式による労働者教育の初め」（『20世紀年表』・小学館）とされ、多くの受講生（例えば『女工哀史』の細井和喜蔵）が参加しました。しかし、「官憲から一種の宣伝所のような誤解を受けたため、大正10年6月からは、友愛会は東京連合会の事業からきりはなし、新たに労働者教育協会を設立して、芝・惟一館に日本労働学校を開設」します。

労働者教育協会は、理事長鈴木文治、理事吉野作造、北沢新次郎、片山哲、会計監事星島二郎、監事赤松克麿、上条愛一、松下芳男らによって運営されました。

4. 労使関係研究協会が第28回労働講座を開催、11月24日！



友愛労働歴史館の兄弟組織である労使関係研究協会（宮本礼一会長）は11月24日（火）午後、小出幸男氏（前日本労働会館理事長）を講師に第28回労働講座を開催しました。テーマは「労働運動35年を振り返って」で、新型コロナウイルス対応のため参加者を限定して行われました。また、ZOOMを活用しインターネット配信を行いました。小出幸男氏はビクター労組書記長、JAM会長、連合副会長などを歴任した労働運動家であり、労働講座では自身の35年に亙る労働運動の体験に基づく報告を行いました。

5. 労働資料協2020年総会は新型コロナウイルス対応のためZOOMで開催、11月10日！

社会・労働関係資料の保存・活用のため、全国の史料館・図書館が加盟している社会・労働関係資料センター連絡協議会（労働資料協）は11月10日（火）、第35回総会を開催しました。本年の総会は新型コロナウイルス対応のため、ZOOMを利用したWEB上での開催となりました。

総会には15機関から25人が参加し、事業報告・事業計画、役員改選、会則の改正、予算・決算などを承認。総会後には各機関の情報交換を行いました。各機関から現状報告があり、コロナ禍の資料館運営等について話し合いました。友愛労働歴史館から安部館員が出席しました。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行：友愛労働歴史館

責任者：徳田 孝蔵

担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL.050-3473-5325

Eメール yuairekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairekishikan.com>

惟一館から125年、友愛会から107年